

美しい多摩川フォーラム・平成28年度総会議事録

- ・日 時 : 平成28年5月28日(土)9:30~11:30
- ・会 場 : フォレストイン・昭和館 2階 シルバンホール(昭島市)
- ・来場者 : 会長、副会長、運営委員、監事、顧問、アドバイザー、一般会員等

(司会・渡辺) 開会までまだ少々お時間がございますが、事務局より幾つかご案内をさせていただきます。本日の総会の次第ですが、お手元の資料にもありますように、細野会長の開会挨拶の後、来賓の方のご挨拶があります。そのあと、経過報告をビデオ放映にてご覧いただき議事に入りますが、第1号議案では平成27年度事業決算(案)、第2号議案では平成28年度事業計画・同予算(案)についてご協議を頂きます。後半は、休憩を挟んで、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長の藤井政人(ふじいまさと)様による特別講演、三多摩青年合唱団による「多摩川の歌」合唱を予定しており、終了は午前11時半頃となります。なお、広報用ビデオを撮影させていただきますので、あらかじめご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。それでは、開会まで少々のお時間をお借りして、フォーラムのPRビデオを上映しますので、前方のスクリーンをご覧ください。

1. 開 会

(司会・渡辺) 只今より、美しい多摩川フォーラム・平成28年度総会を開会致します。それでは、総会開会に当たり、事務局よりご報告させていただきます。

(事務局・及川) フォーラム事務局の及川と申します。どうぞよろしくお願い致します。本日は、会員数1518会員中、委任状による代理人出席を含め219名の会員が出席され、書面議決書提出の会員数を加えて、合計835名ということで、当フォーラムの規約第12条2項により、本総会は成立しておりますことを、まずもってご報告申し上げます。それでは、細野会長に開会のご挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長挨拶

(細野会長) 皆さん、おはようございます。多摩川フォーラムを代表してご挨拶を申し上げます。今日はそうそうたるメンバーや大臣をお迎えして開催する総会です。美しい多摩川フォーラムは、平成19年7月に発足し、来年は10周年となります。その間、東日本大震災があったり、熊本大地震もありました。自然界もなかなか難しいところがありますが、「多摩川の歌」にもありますように、「人々の心をゆるくむすんで」活動を進めていきたいと思っております。我々は、地域の活性化、環境との共生、地域文化の発展を目指して100年プランを策定しました。これらを皆さんと一緒に展開していきたいと思っています。今日は、来賓として素晴らしい方々を沢山呼び寄せています。環境兼

内閣府副大臣の井上様、東京都産業労働局観光振興担当部長の浦崎様、狛江市長の高橋様、青梅市長の浜中様、大田区都市基盤整備部長の荒井様、そして羽村市産業環境部長の橋本様です。また、特別講演として、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長の藤井様をお迎えしております。短い時間ではありますが、皆様とともに、総会を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 来賓挨拶

(司会) どうも有り難うございました。それでは、ご来賓の皆様からご挨拶を頂戴したいと存じます。まず初めに、フォーラムの顧問をお願いしている井上信治環境兼内閣府副大臣にご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

(井上信治様) 皆さまおはようございます。美しい多摩川フォーラムの総会、おめでとうございます。ただいまご紹介をいただきました、顧問を務めております、また、多摩川上流の西多摩地区を選挙区としております、環境副大臣で衆議院議員の井上信治です。多摩川フォーラムも来年で10周年ということですが、細野会長をはじめとした会員の皆様、また、事務局を務めていただいている青梅信用金庫をはじめ関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表したいと思っております。多摩川のカヌー駅伝をはじめとした様々なイベントも行われ、多摩川を大いにPRし、この美しい多摩川の自然を守り、次世代に繋げていく、息の長い支援をしていくことは、本当に素晴らしいことだと思っております。私も環境副大臣として、地元において自然環境を守る取り組みがなされていることを、心から誇りに思います。自然環境の大切さは言うまでもありません。実は、環境省におきましても、昨年、「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」を始めたところです。今日は羽村市さんも来ていらっしゃいますが、昨年12月に羽村市を皮切りに、全国50カ所でシンポジウムを行っております。河川の流域を単位とし、自然環境をしっかり守っていこう、森・里・川・海はみんな繋がっているんだということを流域の皆さんと盛り上げていこうとしておりますが、なんだか多摩川フォーラムをまねたようなことを環境省でもやっておりますが、今後もタイアップしていければと思っております。先ほど、細野会長から少し話がありましたが、東日本大震災を機に、東北への支援に力を入れていただいていることも大変有り難いと思っております。あの震災、原発事故から5年2カ月が経ちました。私はまさに原発事故の担当ですから、相変わらず毎週福島に行っております。しかし5年2カ月も経ちますと、事故の記憶は風化してしまいます。そういう中、まだまだ被災者にとっては厳しい現実です。未だに故郷に帰れない被災者が17万人近くいらっしゃいます。この方たちが一日でも早く故郷に帰れるようにするのは政治の責任でもあります。そんな想いで取り組んでおりますので、ぜひ東北への息の長いご支援をよろしくお願いいたします。今日も様々な企画があるようですから、この総会を盛り上げていただき、多摩川フォーラムの活動を息長く続けていただければ幸いです。

(司会) どうも有り難うございました。続きまして、東京都産業労働局観光振興担当部長・浦崎秀行様に、ご挨拶をお願い致します。

(浦崎秀行様) 皆さんおはようございます。東京都産業労働局観光振興担当部長の浦崎です。本日は、美しい多摩川フォーラムの総会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。会の発足から9年目を迎え、各方面から地域づくり団体として高い信頼を勝ち得ている本フォーラムでございますが、これはひとえに細野会長を中心に、多摩川流域の地域の皆様が、大変息の長い取り組みを着実に進めていただいた成果であると存じます。また、本年3月には、東京都の支援事業を活用していただき、多摩川流域でのカヌー駅伝大会が、流域6市の合同で開催されたと伺っております。こうした取り組みは、多摩川を地域の貴重な観光資源として捉え、活かしていく、誠に素晴らしい取り組み事例であります。ぜひ今後とも、こういった取り組みを積極的に進めていただきますよう期待を申し上げます。さて、昨年、東京都を訪れた外国人旅行者数が、過去最高を記録し、1189万人に達しました。今後も東京都を訪れる外国人観光客の数は増加するものと思われまふ。そうした中、東京都は、世界一の観光都市を目指しており、積極的に観光振興に取り組んでおります。そして今年度中には、観光を一大産業にするため、アクションプランを策定しています。その中には、東京の水辺の魅力を積極的に国内外に発信していくための施策を中心に位置付けています。いずれにしましても、水辺の活用等、観光振興にあたりましては、自治体、行政、観光業界、商工団体、大学、市民等、地域の皆様方が、地域を越えて力を結集して観光振興を進めていただく必要があります。それはまさに多摩川フォーラムの取り組みそのものでして、多摩川フォーラムが良い手本となり、地域の特色を活かした観光振興の取り組みが、東京都内の様々な地域で活発になっていくよう、心から期待をしております。結びに、多摩川フォーラムの益々の発展と、本日出席の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございませぬ。

(司会) どうも有り難うございました。続きまして、多摩川中流域の自治体を代表して狛江市長・高橋都彦様に、ご挨拶をお願い致します。

(高橋都彦様) 皆さんおはようございます。ご紹介をいただきました、狛江市長の高橋でございます。美しい多摩川フォーラムの総会の開催、誠におめでとうございませぬ。狛江市は本当にコンパクトな街で、この後ご登壇される青梅市の浜中市長もお見えですが、青梅市と比べて16分の1となっております。狛江市役所は街の中心にあります。市役所を中心に2kmの円を描くと、街がすっぽり入ってしまいます。それくらい小さい市なので、顔と顔の見える関係が作りやすいです。最近の大地震もそうでしたが、顔と顔の見える関係というのは非常に有効であり、その有効性を活かした「日本一安全な街づくり」を目指しています。一方で、狛江市の人口は全国と違い、毎月100人前後の人が増えており、この2年間で2500人以上増えています。この傾向は当分止まりそうにもありません。新しい市民の人たちと、顔と顔の見える関係を作る意味でも、やはりイベントは重要

だと考えています。昨年から十数件のイベントを追加しております。多摩川におきましても、1月の第2日曜日に、これまで「どんど焼き」「多摩川ロードレース」「消防団出初式」を別々に開催していましたが、これらを多摩川の河川敷一カ所に集めたら、分散開催の5倍(2000人→1万人)の参加者が見込めるようになりました。グリコの宣伝では「1粒で2度おいしい」でしたが、この場合は「1粒で3度おいしい」ということになります。また、4月には、今までなかった、一部の道路を通行止めにした桜まつりを開催し、市内外から2万人前後の方にご参加いただきました。そして、7月17日には、26回目となります、多摩川いかだレースが開催されます。これには多摩川フォーラムにもご参加いただいております、ダニエル・カール副会長もいかに乗船していただいております。私も4年前から乗船しております。毎年少しずつ順位は上がってきており、今年も順位を上げられればと思っています。このイベントは1都4県から参加があり、24自治体からの参加があります。遠いところでは、山梨県の小菅村、新潟県からもご参加いただいております。都内の催しものとしては、発展してきているのかなと思っています。この後、青梅市の浜中市長からもご紹介があると思いますが、今年初めてカヌー駅伝大会を開催されたようですが、上流ではカヌー駅伝、中流では狛江のいかだレースをそれぞれ発展させることが、多摩川流域全体の発展に繋がるのではないかと思います。今日は国土交通省の藤井様がお見えですが、多摩川流域の河川敷としては初めてのヘリポートを作っていただきました。東京都がそれを緊急時の活動拠点に指定しましたので、安全性も増したのではないかと思います。昨年、鬼怒川で活躍した自衛隊のヘリを立川から飛ばしてもらいましたので、防災訓練名目であれば、この近辺からヘリに乗っていただき、訓練に参加していただくことも可能かもしれません。その際にはご案内を差し上げますので、よろしく願います。多摩川フォーラムは、来年度、10周年のアニバーサリーを迎えます。この会が益々発展され、また本日ご臨席の全ての方が、この1年ご健勝でありますことを祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

(司会) どうも有り難うございました。続きまして、多摩川カヌー駅伝大会2016の主催市を代表して青梅市長・浜中啓一様に、ご挨拶をお願い致します。

(浜中啓一様) ただいまご紹介をいただきました、青梅市長の浜中啓一です。本日は、多摩川フォーラムの総会ということで、多くの関係機関ならびに会員の方にお集まりいただき、盛大に開催されることをお慶び申し上げます。ご承知の通り青梅市は、東京の西部地区にあり、いま緑は深く、多摩川は清く、透き通った水が、青梅市の中央部を東西に流れています。多摩川と市民との接点は昔から非常に多く、歴史から振り返ると、いかだ流しという経済的な交流の場でありました。そして、流域の市町村とも昔から交流があったのではないかと思います。今はそのような交流はなくなりましたが、多摩川フォーラムがこういう形で組織され、流域の皆さん方と手を携えて、多摩川の良さを発見し、楽しい多摩川を目指していこうという気持ちで参加されているのではないかと思います。青梅市においても、100年前、琵琶湖産のアユの稚魚を多摩川で放流する実験がなされました。それが全国に知れ渡り、今のアユ釣りの原点に繋がりました。8月には、「多摩川1万

人の清掃大会」に多くの市民が参加しています。先般、地域資源のプログラムとして東京都からお力添えをいただき、「カヌー駅伝」を3月5日に開催しました。青梅市カヌー協会は発足50年になりますが、私は創始者として長い間多摩川を愛し、親しみ、色々な普及活動をカヌーを通じて行ってきました。そんな中、「カヌー駅伝」の話をいただいたので、私も率先して選手として参加しました。お陰様で優勝させていただき、メンバーで祝杯をあげました。これからも、多摩川との接点を強く求めたいと思っております。しかしながら、青梅市においては、多摩川は遊泳禁止なのです。どうしたら多摩川との接点を築き上げられるか、大きな宿題になるのではないかと思います。流域市町村においても、多摩川や支流は遊泳禁止になっているのではないかと思います。これからは、子どもたちの創造的な発想を自然環境から受けることが大事な時代になってきますので、遊泳禁止というひとつのハードルを破っていきながら、多摩川での遊び方をしっかりと子どもたちに教えてあげないと、市民にとってもマイナスになるのではないかなと思います。多摩川フォーラムが実施する事業というのは、大きな目的を持って、流域住民や市町村と接点を持ちながら、素晴らしい活動ができることにご期待を持ちまして、挨拶とさせていただきます。本日は大変おめでとうございます。

(司会) どうも有り難うございました。続きまして、多摩川下流域の自治体を代表して大田区都市基盤整備部長・荒井昭二様に、ご挨拶をお願い致します。

(荒井昭二様) 皆さんこんにちは。本来であれば、大田区長がこの場でご挨拶をさせていただくところですが、公務のため欠席ですので、私から代理でご挨拶をさせていただきます。大田区は、多摩川の最下流に位置し、海と接する場所にあります。この場所には羽田空港があり、沢山の外国人や、東京を初めて訪れる地方の方がいらっしゃる、日本の玄関口となっています。この玄関を出て最初に目にする川が多摩川です。この多摩川河口域には都市部であるにも関わらず、葦原があり、カレイやスズキまで遡上するほど美しい川です。これも、多摩川フォーラムの皆様のご努力や熱意の賜物だと思います。私どもも、水辺の楽校を通じて、多摩川に触れる機会が多くあります。また、区の南側は全て多摩川と接していますので、色々な形で多摩川と触れあっています。一方、下流域ですので、治水の関係があります。先日の水防訓練は多摩川で実施しました。我々は、この多摩川を、地域資源として楽しんでいただき、観光や国際都市にも活かしていきたいと考えています。会員の皆様や関係自治体の皆様と手を携えて、多摩川を良くしていきたいと考えております。本日は総会おめでとうございます。また、多摩川フォーラムの皆様の今後の発展を祈念しまして、挨拶とさせていただきます。

(司会) どうも有り難うございました。続きまして、多摩川上流域の自治体を代表して羽村市産業環境部長・橋本昌様に、ご挨拶をお願い致します。

(橋本昌様) 皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました、羽村市産業環境部長の橋本と申

します。本来であれば、並木市長からご挨拶をさせていただくところですが、公務が重なり、私から市長のメッセージを代読させていただきます。「本日は、平成28年度の総会が盛大に開催され、心よりお慶びを申し上げます。細野会長をはじめ、役員の皆様、そして青梅信用金庫の皆様におかれましては、美しい多摩川フォーラムの運営に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。皆様にご案内の通り、美しい多摩川フォーラムは、経済・環境・教育文化の3つの視点から、幅広い取り組みが進められており、これらの趣旨は、羽村市が市民憲章で掲げております、「多摩川の清流に育まれた心豊かな人間性と、花と緑に恵まれた美しいまちを誇りとする」というものに通じるものであります。平成27年度におきましては、先ほどもご案内がありました、環境庁主催による「繋げよう支えよう森里川海シンポジウム」が羽村市で開催され、本日ご列席の井上環境副大臣のご挨拶に続いて、美しい多摩川フォーラム副会長の小倉先生による基調講演をいただき、多摩川流域で自然と恵みの保全と活用に向けた取り組みをご紹介いただいたことは、羽村市民にとりまして、有意義な時間であったと捉えております。さらには、美しい多摩川クリーンキャンペーン、多摩川カヌー駅伝大会、多摩川夢の桜街道等、新たな発想で多摩川の魅力を再発見する機会を作っていただき、深く感謝申し上げます。引き続き、美しい多摩川フォーラムが、幅広い連携のもと、実践的な活動が成果をあげられますと共に、ご参会の皆様の健勝をご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。羽村市長 並木心」以上代読でした。本日はおめでとうございます。

(司会) どうも有り難うございました。それでは、経過報告に移りたいと思います。事務局から説明をお願い致します。

4. 経過報告 (ビデオ放映)

(事務局) 前にお座りの役員の皆さまは、お席をご移動ください。それでは、経過報告をさせていただきます。定例事業等については、お手元資料の右下隅にページをふっておりますので、詳しくは資料の3ページ目をご参照いただければと存じます。本日は、特に、昨年6月に実施した「第8回多摩川一斉水質調査」、新規事業として「多摩川カヌー駅伝大会2016」の2本をフォーラム運動の報告として、ビデオ上映しますので、前方のスクリーンをご覧ください。

(ビデオ放映)

(事務局) いかがでしたでしょうか。役員の皆さまは、元のお席にご移動ください。本日は、平野副会長にご出席をいただいておりますので、「多摩の物語」の語り会のご感想やフォーラムに期待することなどについて、一言お願いします。

(平野副会長) 皆さん、本日はお忙しい中お集まりいただき、有り難うございます。ビデオで流れていた水質調査ですが、あんなに本格的な調査をされているんですね。それから、カヌー駅伝です

が、実は私も以前カヌーをやっておりまして、急流の中を岩にぶつかって転覆した経験もあります。カヌーは、自分とほぼ同じ高さに水があるので、水にぬれずに川を泳いでいるような楽しさを感じました。いま改めて画面を見て、そのことを思い出しました。カヌー駆伝は本当に人気があり、人も沢山集まって、東京都さんからご支援をいただいて、大成功に終わりました。「多摩の物語」についても映像でご覧いただきましたが、これは、カヌー駆伝にコバンザメのように企画をくっつけていただき、実施させていただきました。「多摩の物語」は、多摩川流域に残る様々な話を掘り起こし、その土地を旅して訪れた人が出会ったもの、出会った人、出会った味等をまとめ、現代の民話のような形で2冊の本にまとめました(上流域編、中・下流域編)。これらには公的な資金も投入され、上流域は農林水産省から、中・下流域はとうきゅう環境財団から補助金をいただきました。本を制作しただけでは保存になってしまうので、その土地の人たちに、その土地にまつわる話を心の中に刻み込んでもらい、その土地の素晴らしさや奥深さ、歴史を感じてもらおうと、語りを事業としてできないかと思っていたところ、東京都さんからご支援をいただき、開催することができました。「多摩の物語」はとても地味な企画ですが、多くの方に有意義だと感じてもらえるのは、美しい日本語と同じくらい、地元の歴史や文化を伝えることが、地域発見として大変有意義であると感じて下さる方が多くいらっしゃることを肌に感じました。そして、そういうところに公的な資金が降りてくることに、私自身がビックリしております。カヌー駆伝はとても華やかで、「多摩の物語」は地味な活動ですが、ずっと長く続けていきたいと思えます。「多摩の物語」の中には、五日市のいかだ下りの話の中で、かつて多摩川で材木を切り、作った炭を江戸幕府の大奥に献上した話も入っています。カヌー駆伝やいかだレースでひっぱっていただき、多摩川のいかだ下りを本格的な事業として昔の伝統的な行事を観光として復活させたら良いなど、映像を見て個人的に思いました。最後になりますが、このフォーラムの事業を予算的に支えてくださっている青梅信用金庫さん、また、会費を払っている会員の皆さんに感謝を申し上げます。事業のひとつひとつは皆さんのおかげです。これからも皆で一緒に多摩川フォーラムを盛り上げていきましょう。有り難うございました。

(事務局)有り難うございました。なお、お時間の関係で、ご紹介できなかった活動が多々ありますが、フォーラムのホームページにビデオレターという形で動画をアップしているものもありますので、ぜひご覧くださいませ。以上で経過報告を終わります。

5. 協 議 (議長:細野会長)

(司会)これより本日の総会の議事運営に移りたいと思えます。その前に、議長を選出する必要がありますが、当フォーラムの規約第12条3項により細野会長をお願いしたいと存じます。それで細野会長、議長席の方へお進みください。よろしくお願い致します。

(細野会長)細野でございます。それでは、規約によりまして暫らくの間、議長を務めさせていただきます。着席したまま進行させていただきますこととお許し願います。それでは、限られた協議時間ですが、皆様におかれましては、既に議案にお目を通して頂いているものとして議事運営を行わせて頂き

たいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。早速ですが、事務局より第1号議案の説明をお願いします。

(1)第1号議案:平成27年度事業決算(案)

(事務局) 資料1ページ目の第1号議案:平成27年度事業決算(案)をご覧ください。まず、収入の部ですが、会費収入は、予算2,100,000円に対し、実績は2,055,000円となりました。因みに、本年3月末現在の会員数は、1,518会員となりました。その他の項目では、青梅信用金庫様、東急百貨店様、大田区民有志様による寄付金のほか、青梅市様からの委託金、とうきゅう環境財団様からの助成金等が加わり、収入合計額は13,324,936円となりました。

一方、支出の部ですが、前回総会にて予算承認後、年度中に新たに発生したものとして、①経年劣化に伴うパソコン更新、及び②東北復興支援の桜の植樹募金の2件ありますが、それぞれ運営委員会において、協議の上、承認されました。以上の結果、次期繰越金見込額は、2,076,566円(うち1,188,025円は、毎年、大田区民有志の皆さんから寄せられた桜の植樹募金の積立金残高)となり、支出合計額は、13,324,936円となりました。

さて、平成27年度決算の監査ですが、資料の2ページ目をご覧ください。5月13日に、当フォーラム監事の館盛和(たちもりかず)様、同じく山崎真義(やまざきまさよし)様より監査を受け、監査報告書を頂いております。それでは、監事を代表して館様にご報告をお願い致します。

(館監事) 只今ご紹介に預かりました監事の館でございます。平成27年度事業決算(案)の監査結果について、山崎監事も同一見解ですので、代表してご報告致します。平成28年5月13日に、平成27年度収支決算書に基づき、帳簿及び証拠書類その他を精査した結果、相違ないと認めます。また、平成27年度活動報告等に基づき、事業の内容について監査した結果、適正であったことを認めます。以上でございます。

(細野会長) はい、有り難うございました。何か皆様の方からご疑問の点はありますでしょうか。…もしないようでしたら、如何でしょうか、ご承認頂けますようでしたら、拍手をもってお願い致します。(拍手)…有り難うございました。それでは、賛成多数で第1号議案は可決承認とさせていただきます。では、事務局より第2号議案の説明をお願いします。

(2)第2号議案:平成28年度事業計画・同予算(案)

(事務局) 資料4ページ目の平成28年度事業計画・同予算(案)をご覧ください。まず、収入の部ですが、会費収入は2,100,000円を見込んでおります。青梅信用金庫様より寄付金として8,000,000円、東急百貨店様より300,000円、委託金として青梅市様より250,000円を予定しており、収入合計額は、12,726,566円となります。

一方、支出の部ですが、総会等運営費として、4,470,000円、各種活動費として6,790,000円を計上しております。なお、東北・夢の桜街道運動として、例年同様、2,000,000円を計上してお

りますが、これは東北復興支援事業として、東北・夢の桜街道推進協議会に拠出します。この結果、次期繰越金は1,466,566円となり、支出合計額は、12,726,566円となります。

資料5ページ目は、平成28年度事業計画(案)の主な実施内容、6ページ目は事業計画(案)の趣旨説明になります。7ページ目は主な事業活動の予定、8ページ目は会議&シンポジウムの予定になります。後ほどゆっくりとご覧くださいませ。以上で第2号議案の説明を終わります。

(細野会長)はい、有り難うございました。何か皆様の方からご疑問の点はありますでしょうか。…もしないようでしたら、如何でしょうか、ご承認頂けますようでしたら、拍手をもってお願い致します。(拍手)…有り難うございました。それでは、賛成多数で第2号議案は可決承認とさせて頂きます。事務局よりその他、何かありますか。

(事務局)はい、資料9ページから11ページの美しい多摩川フォーラム設立10周年記念事業に対するご意見の整理をご覧ください。美しい多摩川フォーラムは、平成29年度に記念すべき設立10周年を迎えます。昨年秋より、各活動部会や運営委員会において沢山のご意見を頂戴しました。その内容を事務局で取り纏めたものがこの資料になります。後ほど、じっくりとお目通しいただき、6月から始まる各活動部会において、ぜひ皆様のご意見を頂戴できたらと存じます。よろしくお願ひします。

(細野会長)はい、この件についてご意見があればお願いします。

(山崎運営委員)長いようであつという間の10周年ですが、今まで多くの企業さんや団体さんが関わってきたイベントがありました。ただ、皆さんが一堂に集まって何をやっているのかが分かっていません。ですので、10年を記念して、経済・環境・教育文化に関わる、各企業さんや自治体さんが行っている色々な行事を、多くの人に知らせるような、「子どもシンポジウム」ならぬ「大人シンポジウム」のようなものができれば、会員の皆さんに広く伝えることができるのではないかと思います。

(細野会長)はい、有り難うございました。素晴らしいアイデアをいただきました。他にいかがでしょうか。

(藤井様)私からは、経済に関わるお話をいたします。青梅線は運行本数が削られています。すなわち、お客さんも少ないし、人口も減少しているということです。これを放っておきますと、もっと本数が減っていきます。そこで提案です。リニア新幹線は、橋本に駅ができます。モノレールも上北台や町田で延伸が確定しています。横浜の地下鉄もあざみ野駅から新百合ヶ丘までの延長計画があります。周辺の交通網は着々と整備されつつあります。4月中旬、八王子市長が、日経新聞で、「年数のかかるものは待ってられない。それに代わるものとして、路面電車を幹線道路に走らせたらかどうか」と真剣に考えているようです。道路については8割が目処がついていて、2割は

調整すればできるということです。交通に関しては、多摩地区にとって非常に良い環境になりつつあります。ただし、お客さまに来ていただかなくてはなりません。そこで、ミシュランガイド3つ星の富士山や高尾山にならい、御岳山も3つ星になるよう整備したらどうでしょうか。5年～10年先になるかもしれませんが、3つ星になれば、御岳山が富士山と同格扱いされます。海外からも観光客が来ます。多摩川フォーラムが中心となり、自治体を巻き込んで、そういった運動を粘り強く行い、地域活性化のために東京都、あるいは国に陳情していただきたいと思います。

(細野会長)はい、有り難うございました。それでは、この点も含めて、今後、事務局で検討させていただきます。お時間の関係で、これにて協議を終了させていただきます。有り難うございました。

(司会)それでは、この後、休憩を挟んで特別講演となります。藤井所長様はご準備をよろしく願います。準備が整い次第、10時45分より始めさせていただきますと存じますので、よろしく願います。

－休憩(10分)－

6. 特別講演

(司会)それでは、お待たせ致しました。今日は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長でフォーラム・アドバイザーの藤井政人様を講師にお迎えし、「今、日本を席卷するミズベリングプロジェクト！！」というテーマで、お話をいただきます。フォーラム会員の皆様には、多摩川およびその水系に関する現状認識や問題意識を高めていただけたら有り難く存じます。

講師の藤井所長様は、1966年岐阜県生まれ。1991年東京大学工学部を卒業後、建設省(現・国土交通省)に入省。近畿地方整備局大和川河川事務所長、同整備局企画調整官、本省の水管理・国土保全局河川環境保全調整官などを経て、2015年7月に関東地方整備局京浜河川事務所長に就任され、現在に至っております。2014年は、ミズベリング・プロジェクト・アドバイザーとして、ミズベリング東京会議・大阪会議・広島会議など各地でミズベリング会議をプロモートし、自らも出演。またJ-WAVEの「Gratitude」・「PrimeFactor」では、東京の水辺を演出する「ミズベリスト」として出演されています。

それでは、藤井所長様、よろしくお願い致します。

(藤井所長)ただいまご紹介いただきました、京浜河川事務所長をしております藤井と申します。今日は京浜河川事務所として多摩川の話をしなければならないのかなと思いましたが、皆さんの多摩川への熱い想いは前段で聞かせていただきましたので、参考になるかどうかは分かりませんが、ミズベリングプロジェクトについてご紹介いたします。

お手元に資料が配布されていますが、これは、全国でミズベリングプロジェクトを実施している41地域がどんなことをやっているのかが記載された資料となっています。後ほどご覧ください。それとは別に配布されているチラシについては、後ほどご紹介いたします。

「今、日本を席卷するミズベリングプロジェクト！！」と題しましたが、少し後悔しています。まだ席

巻しているとまではっていないのかな、と思っています。そもそもミズベリングプロジェクトをお聞きになったことがある方はいらっしゃいますか？拳手をお願いします。ほとんどいらっしゃらないですね。まだ席卷するレベルではないようです。ミズベリングプロジェクトとは、かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトで、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こすプロジェクトです。しかし、そう言われてもなかなか分からないと思います。ミズベリングとは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語で、水辺を再発見していきましょうというような願いを込めて作られました。「DEAI IDEA」はダジャレですが、色々な人と出会って、アイデアを吸収しながら前へ進んでいきましょうという意味で、オープンイノベーションと同じような意味です。「ミズベリング3ベーション戦略」として、「モチベーション」、「リノベーション」、「イノベーション」とあります。要するに、①水辺のモチベーションを高め、興味と関心が目覚め熱意とやりがいが集まるようにすること、②水辺のリノベーションを支援し、様々な領域で新しい挑戦や実験が行われること、③水辺のイノベーションが起こり、制度が動き、投資が生まれ、水辺の市場が誕生することです。

では、ここで言う水辺とは何でしょうか。定義はありません。水辺とは、川っぺりだったり、海っぺりだったり、水と陸との堺というイメージを持たれるのですが、ちょっと違うのではないかと、いくつか写真を用意したのでご覧ください。こちらはフランス・パリのセーヌ川です。こちらはアメリカ・サンアントニオのサンアントニオ川です。そしてこちらはオランダ・アムステルダムスのプリンス運河、こちらはオーストラリア・メルボルンのヤラ川です。こちらはイギリス・ニューキャッスルのタイン川です。次に日本ですが、こちらは江戸期の隅田川、こちらは名古屋の堀川、こちらは京都の四条河原です。現代の日本を紹介すると、こちらは山形県長井市の最上川水系平野川、こちらは石川県加賀市の大聖寺川、こちらは岐阜県高山市の三町用水と打ち水、こちらは同じく岐阜県大垣市の水門川、こちらは有名な大阪の道頓堀川、こちら大阪の土佐堀川、こちらは広島県の京橋川、こちらは島根県松江市の松江堀川、そしてこちらは福岡県福岡市の那珂川です。いくつか今の日本の川を見ていただきましたが、世界の川と比べてどういう印象を持ちましたか。もちろん都市部の川や自然豊かな川、緑豊かな川も織り交ぜてご紹介しましたが、いずれも水辺＝境界領域なのですが、必ず人が集まる場所なのです。人が集まるとまちができて、空間の広がりができます。すると、商売をする人が出てきます。地域活性化ということです。すると、色気が生まれ、文化が生まれます。歌や踊りや食文化も含みます。それらを繋げると歴史が生まれます。それがひいてはまちのシンボルになります。そういった要素を含めた、色んな物の境界の中心には水辺があるのです。と、私が定義しています。これを別に表現すると、「川は、総合芸術の最高峰だ。」となります。「川は、ぼくらにとって小説であり、恋であり、科学であり、音楽であり、視覚芸術であり、匂いであり、記憶であり、ぼくらの未来である。」です。そこは常に動いていて、混ざり合っている世界です。だからこそ、過去にとどめるだけではなく、未来志向で何かが起こるのではないかとワクワクするような空間が水辺なのです。

では、現在の水辺はどうでしょうか。悪い例をご紹介します。この写真は東京都の日本橋川です。川の真上に首都高が走っています。個人的には嫌いではないのですが、ここには人もいないし船もいません。賑わいがあるとは思えない空間です。続いて、こちらの写真は隅田川です。きれいに整備されても、歩く人がいない、ジョギングする人がいない、犬を散歩する人がいない。そんなのは整備しても寂しいだけです。そういう空間が他にもいくつかあります。続いてこちらの写真。日本語で「水に流す」という言葉があります。日本の川は、生活と密接な川です。ゴミを水に流す人が後を絶たないので、こうなります。水辺の現状として、いくつか良いところもあるけれど、なんとかしなければならぬのです。

では、何をしていけば良いのでしょうか。そこで2013年に立ち上げたのが、ミズベリングのきっかけとなった「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」です。ソーシャルデザインとは、色々な人が絡み合って、ひとつの意見を集約するのではなく、聞いたことで自分の目標をはっきりと持っていき、いわゆるソーシャル・ネットワークです。こういった会のメンバーは、ほとんどが大学の学識者です。あるいは河川工学の専門家や、経済学者です。しかし、この懇談会のメンバーに学識者は2人しかいません。なぜでしょうか。水辺に関わっている人たちは、学識者ばかりではないのです。商売をされている方、アクティビティに携わっている方、また、アーティスト、金融、不動産関係の方もいらっしゃいます。ともすると、私のような国土交通省で河川・土木専門の技術者が、普段お付き合いしないような方々に、水辺に対してどのような感想を持っているか、どんな水辺にしたいかを聞いたのがこちらの内容です。ポイントだけお話しします。①かつて水辺は猥雑で色気があったにも関わらず、治水重視の中で水辺が様変わりしてしまった。もう一度水辺の潜在的な魅力を復活させても良いのではないかと。②日本の河川空間は公共空間で、河川法がある。河川法には人の利用が制限されておらず規制がされている。自由利用なのに、自由に使えないと思っている人が多い。それを変えなければならない。もっと自分たちでまちに対する誇りと自由度の高い空間を取り戻したい。⑤水辺を楽しむ礼儀作法を作る。規制は、守らない人がいるから作るもの。多摩川でBBQは禁止されている。煙の問題、深夜のどんちゃん騒ぎ等。それらが法律になってしまうと、本当に使えなくなる。なんでもありで水辺を無秩序に利用するだけでは、行政との競合は解消しない。自由を履き違えるとこういったことが起こってしまい、規制が生まれてルールが生まれ、法律になってしまう。ドローンの規制もそう。最低限の礼儀作法を身につけないと、公共空間を使うことができなくなってしまう。⑦行政は公平、公正、中立の姿勢は重要であるが、新しい提案を受け入れる度量を持つ。⑩そういった考え方、運動論ができる人を育てていくプロモーションが必要。

これらをまとめると、「つくる」だけではなく「育てる」という感覚が大事です。ともすると、国土交通省はトンカチ官庁だと思われています。実際にトンカチはしていますが、作った後が大事なのです。作った後に、どんな使われ方を期待するのか、使われているのか、「使い勝手の悪い空間を、頭でっかちに考えていやしないか」と置き換えてください。そういうことでは駄目です。そうならないために、①賢く使う発想、②民間のノウハウを吸収する柔軟性、③ソーシャルデザインの考え方が

必要です。さらに、「使いこなし」という視点も大事です。①場所・空間を使いこなす、②制度を勉強して使いこなす、③人・技(知恵)を使いこなす。場所の使い方を知っていて、制度を知っている人を使いこなすのです。これらを達成しようとしているのがミズベリングなのです。ミズベリングプロジェクトは、「こんなことをしたら良いのではないか」と思った人が、自分で動いてみるのです。その振動が色々な人に伝わり、影響を与えていきます。最初は1人でも、賛同する人が集まれば、2倍の力になります。さらに振動が回転を始め、巻き込むことができます。そうなれば、振動が行政自体を動かすのです。そういう社会をデザインしていこうとしています。それを水辺から始めていきます。観光客、潤い、商業開発は、健康的で持続可能なまちづくりに繋がります。そして、自己責任感覚の成長で、できないことができます。また、大胆な発想で、色気と魅力的な時間を創造することができます。例えば、先ほどご紹介したパリ・セヌ川の写真のように、川べりの道路を封鎖してビーチまで作ってしまうような大胆な発想が大事なのです。

このミズベリング会議を初めて行ったのが、2014年3月22日の東京会議(墨田ホール)です。Facebook だけで呼び掛け、水辺に関心はあるけど、何をやって良いか分からない200人を超える人が集まりました。その中で、行政関係者は30人程度です。東京都の職員も、身分を明かさず参加していました。国土交通省の職員もいます。会議の内容は、初めに水辺の有識者がトークセッションを行い、皆でワークショップを行いました。「あなたならこの水辺で何をしたいですか」がテーマです。1テーブルに10人くらいが座りますが、ほとんど初対面の人ばかりです。そこで出た案が、この絵です。色々な発想があります。川の上のホテルや、川の中の読書空間、結婚式場等、様々なアイデアが出てきました。まずは自分の中で自分をブレイクスルーするのです。そうすると、「川は通るだけの水路ではない、新しい想像力が通る未来につながる可能性の生まれる場所だ」という感じの機運が共有できました。じゃあうちでもやってみようかな、と、全国展開しました。いくつか紹介すると、広島では、60人中半分が学生でした。日本橋三越本店や長崎、つい先日には、ミズベリングジャパンが開催され、600人が集まりました。最近やっている企画は、「水辺で乾杯」です。7月7日の七夕の日、午後7時7分に、自分の思い思いの水辺に集まって乾杯するのです。誰かがドリンクを用意するのではなく、自分が用意します。片付けも自分です。長居はしません。「自分は水辺に関わりたい人ですよ」という目印に、何か青いものを身につけます。去年初開催したところ、一か所で平均20~30人、多い所で500人が集まりました。少ないところは1人です。全国で4000人が参加しました。今年もこの企画が近々発表になります。特設サイトが立ち上がるので、ぜひアクセスしてください。福井県の日野川では、「おしゃれな リ・BAR」という、3日間だけのバーをオープンする店が現れました。私も去年行きましたが、川でビールが飲めるなんて最高です。こちらの写真は、岐阜県高山市の宮川ですが、夏の2日間だけ川床を作っています。やり方によっては多摩川でもできます。

まとめとして、これからは「川った人の時代」です。「他人事」と「自分事」を繋ぐ「未来想像力」を持った「よそ者(人とは視点が違う)」「わか者(柔軟な発想)」「ばか者(既成概念にとらわれない)」が

いれば、自分の地域の川は、どんどん変わるはずです。地域の財産をどうやって見つけるか。自分が見つけることです。しかし場合によっては、よそ者に見つけてもらうことです。

公共空間(Public Space)とは、Official Space(行政が管理すべき空間)であり、Common Space(参加者が共有する利害がある空間)であり、Open Space(アクセスを拒まれない空間)であることを理解してください。また、これから日本の水辺は、世界から注目されるチャンスです。そして「3→10」とありますが、数字だけを見るとなんだか分からないでしょう。国交省で近々発表しますが、規制緩和をします。商業利用許可3年までだったものを10年に伸ばします。そして、「はひふへほ→さしすせそ論」。これは私の言葉ではなくて、東急電鉄の東浦さんの言葉を拝借しました。「排他的、批判的、不平不満、閉鎖的、保守的」なネガティブな考え方ではなく、「参加意識、柔軟性、推進力、世代交流、想像力」が水辺の創造に必要なのです。他人事(人任せ)にせず、自分事として関係を持つことが重要です。「川ろうぜ！」の精神で頑張りましょう。どうも有り難うございました。今日使った資料は、ご希望の方は私にアクセスしていただければお送りします。

(司会) 藤井所長様、大変貴重なお話、有り難うございました。それでは、藤井所長様に今一度大きな拍手をお願いします。

7. 「多摩川の歌」ほか合唱 (三多摩青年合唱団)

(司会) 皆様お待たせ致しました。それでは、美しい多摩川フォーラムの歌である「多摩川の歌」を、三多摩青年合唱団の歌声に乗せてお届けしたいと存じます。準備のため、いましばらくお待ちくださいませ。三多摩青年合唱団は、結成されてはや53年。『歌は生きる力』をモットーに、演奏活動を行っています。それでは、よろしく願い致します。

…… 合唱 ……

(1) 多摩川の歌

(2) うたって愛して

(司会) 皆さん、有り難うございました。如何でしたでしょうか。うっとりするような「多摩川の歌」でしたね。フォーラムでは、引き続き、「多摩川の歌」の普及に努めて参りたいと存じます。それでは、以上をもちまして、「多摩川の歌」の合唱を終ります。改めて、三多摩青年合唱団の皆さんに盛大な拍手をお願い致します。

8. 会長総括

(司会) さて、早いもので、総会のお開きの時間も迫ってきております。ここで、細野会長に総括をお願いしたいと存じます。

(細野会長) 今日は内容が盛り沢山で、あっと言う間のひと時でした。「多摩川の歌」にもありまし

たように、皆さんの心と心をゆるくむすんで、美しい多摩川フォーラムは100年に向かって歩いていきたいと思えます。それには、皆さん1人1人のお力が必要です。今日は、藤井所長という、心強いお仲間を加えることができました。ぜひとも、美しい多摩川フォーラムと一緒に、イノベーションを起こしていきたいと思えます。本日は、土曜日の貴重なお時間をいただき、有り難うございました。

9. 閉会挨拶(平岡副会長)

(司会)有り難うございました。それでは閉会挨拶と致しまして、平岡副会長にお願い致します。

(平岡副会長) 会員の皆様、本日は土曜の早朝にも関わらず、このように大勢の皆様が平成28年度総会にお越しいただき、誠に有り難うございました。そして、ご来賓の皆様、大変お忙しい中、ご出席いただき、また、ご祝辞をいただき、有り難うございました。そして、藤井所長様、大変有意義な講演、有り難うございました。7月7日午後7時7分、水辺に集合ということで、ぜひ皆さんよろしくお願ひします。本日、提出させていただきました議案は、全てご承認をいただきました。いよいよ、平成28年度の多摩川フォーラムの事業が開始いたします。ぜひ、会員の皆様におかれましては、ひとつでも多くの事業にご参加いただき、この会を盛り上げていただきたいと思います。最後になりますが、本日ここにお越しの皆様のご多幸、ご健勝、そしてご活躍を祈念申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は有り難うございました。

10. 閉 会

(司会)有り難うございました。皆様、本日は長時間に亘り、会議進行にご協力を頂きまして、誠に有り難うございました。これをもちまして、本日の美しい多摩川フォーラム・平成28年度総会を閉会とさせていただきます。有り難うございました。

以 上